

群青

仙台市立第一中学校
第3学年だより
第7号 2021.6.2

練習は試合のように 試合は練習のように 市中総体開幕まであと10日余りです

中総体を間近に控え、校内は一気に総体ムードが高まってきました。
後輩達からの応援メッセージ、1ヶ月前から始まったカウントダウン、昇降口には子どもたち一人一人の決意表明が掲示されています。
学習や校友会活動との両立に苦心しながらも、子どもたちは精一杯中総体に向かっていきます。
このような状況の中与えられた奇跡のような舞台。
「感謝」の気持ちを大切にしながら、いい経験を積んでほしいと思います。



新型コロナウイルス感染に関する市中体連からのガイドライン

25日、市中体連から「新型コロナウイルス感染者等発生時」のガイドラインが出ましたので内容の一部（感染者発生時の対応、生徒等の状況別対応）を抜粋してお知らせします。子どもたちはもちろん、保護者の皆様にも内容を共有していただきたいと思います。

〔大会前に参加予定校において感染者等が発生した場合〕

臨時休校（休業）期間や学年（学級）閉鎖期間は当該校（学年・学級）の生徒の大会参加を認めない。

〔生徒等の状況別対応一覧〕 ※生徒等：生徒，教職員，外部の指導者

生徒等の状況	対応
A：感染者	当該生徒等については、保健所の指示による自宅等における療養期間中、外出自粛期間中の大会参加を認めない。
B：濃厚接触者	
C：PCR検査等の対象者	当該生徒等については、結果判明前の大会参加を認めない。

〔万が一、校内に感染者が出た場合に備えて〕

◆濃厚接触者を最小限にする

一人の感染者に対し、多くの生徒が濃厚接触者に指定されてしまう恐れがあります。一校内の活動において、濃厚接触者を可能な限り少なくするためには以下のような対応が挙げられます。

- ① 活動中に運動の場面以外（活動の準備や順番待ち）でも、近距離でマスクを外した状態で長時間会話をする状況をなくす。
- ② 休憩や水分補給などの際に、生徒同士がマスクを外した状態で密集・密接し、会話をする状況をなくす。
- ③ こまめな手洗い・うがいを励行し、実践する。

→万が一、集団内に感染者（陽性者）が出たとしても、保健所から周囲の生徒が「濃厚接触者」と指定されない状況（環境）作りが大きなポイントとなります。

状況が芳しくなく「学級単位」「部活動単位」で「濃厚接触者」として指定され、最後の大会への参加を断念する事例がすでに他県において生じています。

その傍ら（笑）・・・学級旗も完成しました

担当した皆さん お疲れ様でした

1組



2組



3組



4組



5組



6組



ピンチの時に思い出したい言葉

マラソンランナー有森裕子選手や、高橋尚子選手の名コーチとして知られた故小出義雄氏。そんな小出氏が、有森選手に「よく言っていた言葉」があります。

それは・・・「せっかくと思え」

たとえば、有森選手が練習のしすぎで足を故障した時には、「せっかく故障したんだから、今しかできないことをやろう」「せっかく神様が休めと言ってくれているんだからしっかり休もう」こう伝えることで、「故障によって調整が遅れてしまう」と焦る有森選手の心を落ち着かせ前向きにさせたとのこと。

そして、小出さん、こうも言っています。

「どんな状態の時も『せっかく』と思えばいいんだよ。そうすれば、すべてが力になる」

「ピンチの時には『せっかくこんな場面』にいるんだからと思えばいい理論」

プラス思考が大事ということでしょうね。いろいろな場面に応用がききそうです。



